

資料 1

豊岡市地域包括支援センターの設置状況について

(2022年4月1日現在)

名 称	人 口 (第1号被保険者数) 高齢化率	要支援・ 要介護 認定者数	配置職員	設置形態
豊岡地域包括支援センター 対象区域面積 133.40 km ²	39,705 (12,226) 30.8% 港地区除く	2,135	看護師 4 社会福祉士 2 主任介護支援専門員 1 主任介護支援専門員(嘱託) 1 介護支援専門員(嘱託) 1 介護支援専門員(非常勤) 1 事務 1	
				小 計 11
城崎・竹野地域包括支援センター 対象区域面積 162.93 km ²	9,778 (4,097) 41.9% 港地区含む	817	看護師 1 看護師(嘱託) 1 社会福祉士 1	
城崎・竹野地域包括支援センター 竹野分室 再掲 対象区域面積 102.79 km ²	再掲 4,165 (1,803) 43.3%	再掲 349	社会福祉士 1 主任介護支援専門員 1	
				小 計 5
日高地域包括支援センター 対象区域面積 150.24 km ²	15,879 (5,509) 34.7%	1,070	看護師(嘱託) 1 社会福祉士 1 社会福祉士(嘱託) 1 主任介護支援専門員 1 介護支援専門員 1 介護支援専門員(非常勤) 1 事務(嘱託) 1	委託 豊岡市社会 福祉協議会
				小 計 7
出石・但東地域包括支援センター 対象区域面積 251.09 km ²	12,986 (4,992) 38.4%	940	保健師 1 社会福祉士 1 主任介護支援専門員 1	
出石・但東地域包括支援センター 但東分室 再掲 対象区域面積 161.96km ²	再掲 3,810 (1,712) 44.9%	再掲 366	社会福祉士 2 看護師(嘱託) 1	
				小 計 6
豊岡市合計	78,348 (26,824) 34.2%	4,962	合 計 29	

2021年度 豊岡市地域包括支援センター事業報告

2021年度地域包括支援センター活動目標『高齢者が可能ななかぎり住み慣れた地域でその人らしい生活を継続していくことができるよう地域課題を把握し、市や地域住民、関係機関との連携・協働により、地域共生社会（「高齢」「障害」といった縦割り型福祉ではなく、生活上の困りごとを抱えた人を地域で幅広く支えることが出来るような包括的支援）を見据えた地域包括ケアシステム構築の推進に向け取り組む』のもとに、以下の活動を行った。

（人数等実績数値は、各年度とともに3月末現在）

1 総合相談支援業務

- 方針(1) 高齢者のさまざまな相談を受け止め、心身の状況や家庭環境等の適切な実態把握を行い、スクリーニングのもと対応する。
- ア 相談対応の中で、必要に応じ適切なサービスや社会資源につなぎ、総合相談支援対応の終結に向け取り組む。

【活動実績】

総合相談では、本人の意向を確認するため聞き取りや訪問等での丁寧なアセスメントと、総合相談受付時に、緊急性を判断しレベルに応じた対応を心がけた。相談内容により、ケアマネジャーや各種サービス・社会資源へつなぎ、相談を停滞させることなく対応することができた。数は少ないが、生存確認等命の危険のあるケースへの緊急対応が必要な相談には、警察や消防とも連携を図り対応した。

【課題】

終結のラインを決めるための職員のスキルや意識の浸透は不十分である。総合相談受付で、専門的・継続的な関与が必要と判断される困難事例や、介護保険制度では解決できない課題を抱えた相談も増加している。総合相談として、地域包括支援センターが関わり続ける複合多問題世帯等の困難事例が増加の一途を辿っているため、介護予防ケアマネジメントとの両立が困難になっている。

また、訪問介護事業所・訪問看護事業所の受け入れ先が見つかりにくいなど、本来サービスを必要としている高齢者へサービスが届きにくい、高齢者の住み替え先が見つからない、必要な社会資源が見つからないなどの問題も多く、さらなる地域資源の開発が必要である。

【事例】

① 80歳代 女性 独居 (豊岡圏域)

H29年、近隣への被害妄想により相談につながる。

本人は特定の近隣の方から嫌がらせを受けていると訴えている。特定の近隣の方は、長年の本人の被害妄想により精神的負担がかなり増大している。個別ケア会議を繰り返し

開催し協議を重ね、市や県の保健師との連携も密に図りながら様々な対応をしているが、精神科受診につながらない。日常生活は自立しているため、介護保険制度も利用していない。現在もローテーションを組んで、月1回程度の訪問を継続し情報を共有している。

② 67歳女性と30歳代未婚の子供2人との3人暮らし。(日高圏域)

R2年、近所で廃虚のようだと問題になっており、警察から相談が入ったケース。

民生委員・警察と包括で情報共有し、訪問を繰り返し女性とは会えたが、会話がかみ合わず独特の考え方の持ち主。息子は仕事をしているが、娘は自宅に引きこもっている状態だとわかる。日常生活は何とか成り立っている様子であるが、ごみが山積している。世帯全員が何らかの精神疾患か発達障害を抱えていると思われるが、女性の強い拒否もあり介入の糸口が見つからない。連携して様子観察を継続していくしかないとの結論で、民生委員・警察と世帯の様子の変化を共有し、支援につながる糸口を模索している。

①②の事例の様に、精神疾患や発達障害が疑われる高齢者や家族の相談が増加している。その中でも精神科受診につながっていない、本人が支援の介入を拒否されるケースへの対応について苦慮している。今後は、積極的に精神疾患や発達障害についての研修に参加したり、学ぶ機会を持ったりすることで、職員自身のスキルアップも図り対応力の向上を図っていきたいと考えている。

※スクリーニング…ふるいにかけて条件に合うものを選び出す。優先順位や緊急性の判断にも用いる。

※複合多問題世帯…8050問題・9060問題等、高齢の親とひきこもりの子の世帯。高齢者と障がいのある家族のみの世帯。認知症や障害等で、認知判断力が低下している、または判断できる者がいない世帯。関わる家族・親族がいない世帯。地域から孤立している世帯等の総称。

※発達障害…生まれつきの脳機能の障害によるもので、注意欠如・多動症(ADHD)や学習障害(LD)、自閉症スペクトラム障害(ASD;アスペルガー症候群、自閉症など)が含まれます。

方針(2) 支援を必要とする高齢者の把握及び継続的な支援を行うため、地域における様々な関係者とのネットワーク構築を行う。

ア 地域住民、ボランティア、介護サービス事業者、生活支援コーディネーター等と連携を図り、支援の必要な人を地域の中で支えるネットワークづくりを行う。

【活動実績】

コロナ禍で人が集まる場への参加がしにくい状況は続いているが、可能な範囲で感染対策を取りながらサロンや福祉部会に参加した。高齢者の支援に必要な関係者や地域住民とは連携を取りながら継続的に支援を行っている。支援を必要とする高齢者が、地域の方々に支えられていることが事例を通じて再認識できた。

【事例】

但東圏域では、認知症により一人歩きが頻繁にみられるようになった高齢者に対し、地域の友人が中心となり民生委員や専門職等が協力し合い、地域ぐるみでの見守りのネットワークが出来ている。自宅から離れたところにおられると家族に連絡が入り、すぐに探しに行くことが出来たり、地域の方が声をかけて連れて帰ったりしてくれることもある。地域と専門職等が連携し、見守り体制を構築している事例は、地域包括支援センターにも情報がつながり、地域の中で起きていることが共有できている。

【課題】

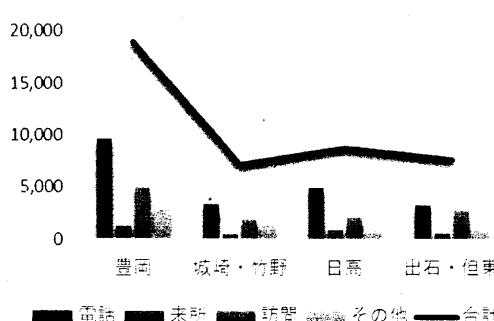
高齢者が抱える様々な課題に対して、地域包括支援センター職員と遠方に住んでいる家族では、課題に対する危機感の違いを感じることがある。高齢者と家族が会えない環境で家族が不安を強く感じている場合と、帰省できないから支援者任せになる場合などである。また、高齢者を地域の中で支えていく上で、本人や家族の同意が得られない場合が、ネットワーク構築の支障になる。

【方法別相談件数】

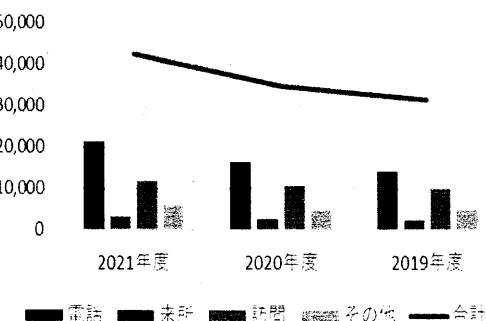
(単位：件)

	電話	来所	訪問	その他	合計
豊岡	9,677	1,328	4,982	2,935	18,922
城崎・竹野	3,344	528	1,859	1,427	7,158
日高	4,925	885	2,105	845	8,760
出石・但東	3,300	580	2,836	909	7,625
2021年度	21,246	3,321	11,782	6,116	42,465
2020年度	16,462	2,711	10,754	4,970	34,897
2019年度	14,143	2,556	9,810	5,037	31,546

方法別相談延件数



方法別相談件数年度比較



◆コロナ禍が続いている影響もあり、どの圏域も電話相談が最も多い。

◆前年より相談件数が、7,000件以上増加している。

【相談者延人数】

(単位:人)

	本人	家族 親類等	知人 近隣	民生 委員	ケアマネ ジャー	サービス 事業者	医療 機関	行政	社協	その他	合計
豊岡	4,577	4,113	188	165	2,252	2,946	1,157	1,361	305	260	17,324
城崎・竹野	1,979	1,638	117	59	490	1,780	475	502	317	123	7,480
日高	2,998	2,755	135	97	882	3,008	747	1,138	364	95	12,219
出石・但東	3,440	3,325	98	135	505	1,750	760	673	305	191	11,182
2021年度	12,994	11,831	538	456	4,129	9,484	3,139	3,674	1,291	669	48,205
2020年度	12,616	9,979	422	544	3,677	8,453	2,661	2,958	1,380	585	43,275
2019年度	11,970	9,291	517	555	3,390	8,024	2,422	2,789	968	676	40,602

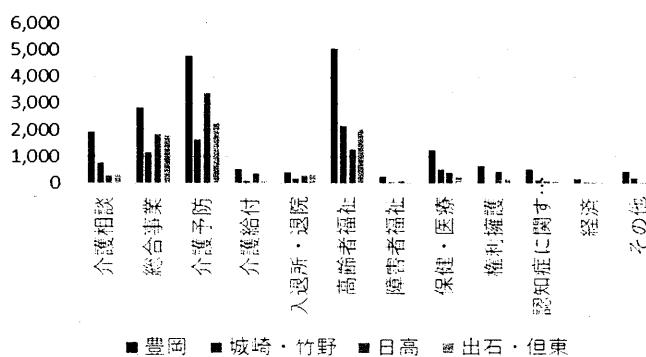
◆相談者のその他は、後見人・弁護士・司法書士・行政書士・不動産屋・大家等となっている。

【内容別相談件数】

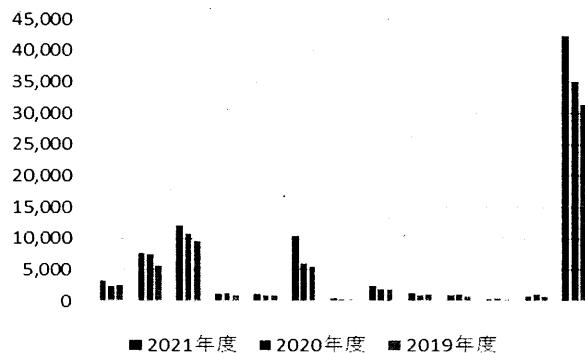
(単位:件)

	介護 相談	総合 事業	介護予 防	介護 給付	入退 所・退 院	高齢者 福祉	障 害 者 福 祉	保健・ 医療	権利 擁護	認知 症に 関す る事	経 済	その 他	合計
豊岡	1,924	2,819	4,758	539	442	5,038	245	1,248	678	556	201	474	18,922
城崎・ 竹野	782	1,181	1,662	98	177	2,147	73	549	45	146	75	223	7,158
日高	309	1,848	3,384	382	294	1,310	107	428	450	115	50	83	8,760
出石・ 但東	339	1,791	2,265	88	334	2,031	54	250	179	122	59	113	7,625
2021年度	3,354	7,639	12,069	1,107	1,247	10,526	479	2,475	1,352	939	385	893	42,465
2020年度	2,471	7,462	10,716	1,313	993	6,063	294	1,993	989	1,093	452	1,187	35,026
2019年度	2,583	5,798	9,721	1,077	1,054	5,641	365	2,027	1,155	870	389	866	31,546

内容別相談件数



内容別相談件数年度比較



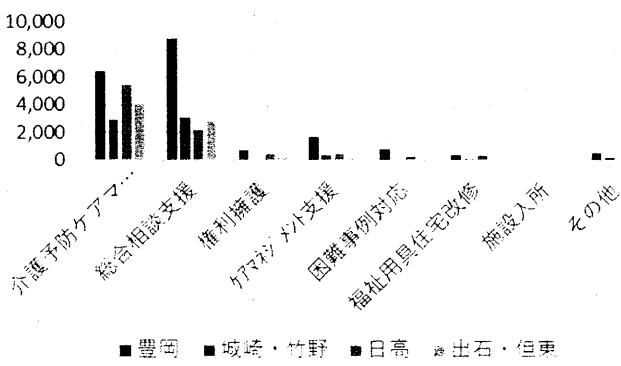
◆内容別のその他は、ワクチン予約、ごみの片づけ、住居の住替え、同居家族の相談等となって
いる。

【対応内容】

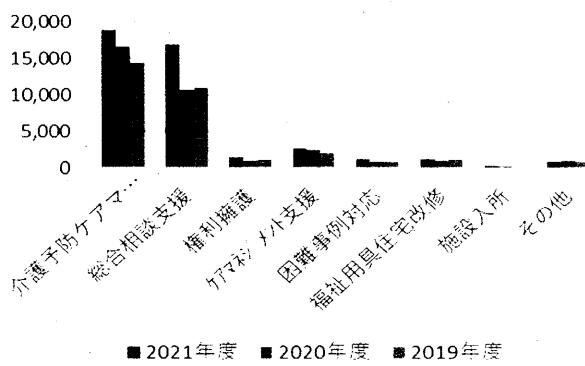
(単位:件)

	介護予防 ケアマネジメント	総合相談 支援	権利 擁護	ケアマネジメント 支援	困難事 例対応	福祉用具 住宅改修	施設 入所	その他	合計
豊岡	6,444	8,770	762	1,679	800	411	105	595	19,566
城崎・竹野	2,922	3,091	48	401	56	162	60	198	6,938
日高	5,435	2,199	443	440	342	413	47	22	9,341
出石・但東	4,064	2,883	208	169	30	171	52	82	7,659
2021年度	18,865	16,943	1,461	2,689	1,228	1,157	264	897	43,504
2020年度	16,729	10,847	1,111	2,556	926	1,114	271	1,105	34,659
2019年度	14,416	11,111	1,275	2,105	953	1,155	222	958	32,195

対応内容



対応内容 (年度比較)



◆前年度より、介護予防ケアマネジメントは2,100件以上増加、総合相談は6,000件以上増加して
おり、全体の8割以上を占めている。

【広報活動件数】

	対象者	実施件数	延べ参加人数
豊岡	住民、学生、企業等	21 件	596 人
城崎・竹野	民生児童委員、住民、学生等	5 件	81 人
日高	民生児童委員、住民、学生等	5 件	111 人
出石・但東	民生児童委員、住民等	12 件	194 人
合計		43 件	982 人

2 権利擁護業務

方針(1) 豊岡市高齢者虐待対応マニュアルに沿い、関係機関との連携のもと終結を目指す。

- ア 高齢者虐待対応力向上研修に社会福祉士以外の専門職も積極的に参加し、事例に即した適切な対応が出来るよう取り組む。

【活動実績】

但馬地域包括・在宅介護支援センター協議会主催にて、講師上田晴男氏による『虐待対応・家族アセスメント』の研修がオンライン開催であり、社会福祉士以外の看護師や主任介護支援専門員も参加できた。養護者の捉え方の整理ができ、虐待対応での事実確認の際の細やかな留意点等の学びにつながった。

【課題】

オンライン研修を積極的に活用し、行政担当者と一緒に受講することで、虐待対応の目線合わせや迅速で適切な対応ができるように、スキルアップを図っていく必要がある。

方針(2) 必要な人が成年後見制度の利用が出来るよう支援する。

- ア 必要な人に成年後見制度の利用がつながるようにスクリーニング力をつける。

【活動実績】

判断能力が低下し成年後見制度の利用が必要かどうか迷うケースの事例検討を行った。成年後見制度活用のプロセスの確認や類似問題、状況への対応力応用力が高まった。また、制度利用に至るまでに把握しておく点について確認することができた。

【課題】

今後も多様な事例の検討を繰り返すことで、どの圏域で成年後見制度の利用を検討することになっても対応できるスクリーニング力の更なるレベルアップを図り、必要な方に成年後見制度の利用支援ができるようになる。

方針(3) 関係機関と連携し、高齢者の消費者被害の防止に努める。

ア 但馬消費生活センターや豊岡市消費生活センターと連携し、意見交換・情報交換を行い、高齢者の消費者被害の防止に努める。

【活動実績】

豊岡市消費生活支援センターとの意見交換・情報交換を実施し、最近の消費者被害の傾向を知ることができた。手口が巧妙になっていることを知り危機感が高まり、高齢者に気を付けてもらうポイントも知ることができ、高齢者への注意喚起の参考になった。

【課題】

消費者被害の傾向は随時変化していくため、定期的な意見交換の機会を持ち連携体制を強化していく。

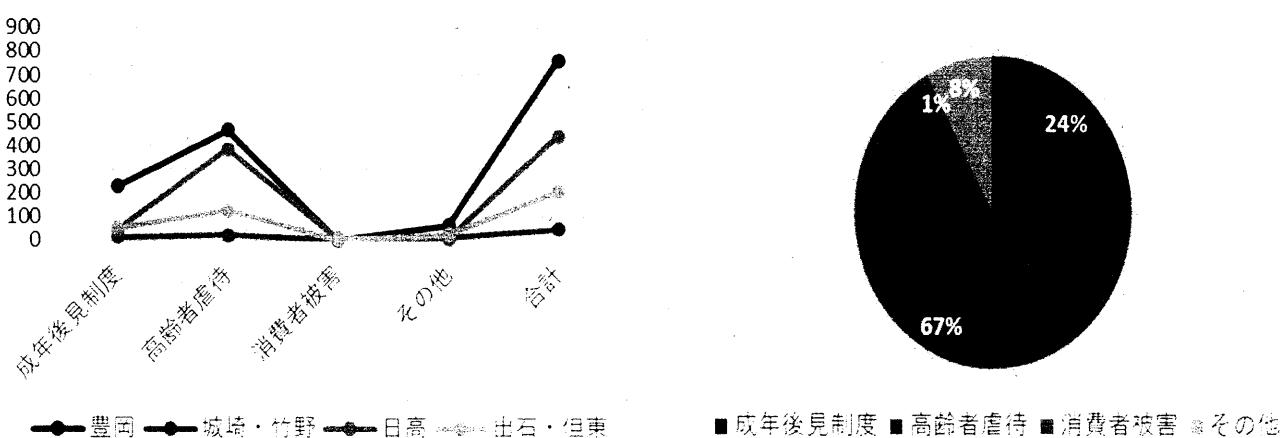
【権利擁護に関する相談】

(単位:件)

	成年後見制度	高齢者虐待	消費者被害	その他	合計
豊岡	228	468	2	64	762
城崎・竹野	14	23	1	10	48
日高	43	386	8	6	443
出石・但東	53	128	2	25	208
合計	338	1,005	13	105	1,461

権利擁護に関する相談

2021年度



◆豊岡

◆城崎・竹野

◆日高

◆出石・但東

■成年後見制度 ■高齢者虐待 ■消費者被害 ■その他

- ◆日高、豊岡の虐待相談が増加している。
- ◆権利擁護業務で、高齢者虐待の相談が全体の約7割を占めており、通報件数は年々増加している。

【虐待通報件数等】

(単位：件)

	前年度からの継続	通報	内虐待認定
2021年度	14	42	22
2020年度	15	31	19
2019年度	15	29	25

【虐待対応件数】

(単位：件)

	分離		分離せず		成年後見 制度申立	終結	対応継続
	特養へ措置	養護へ措置	入院・施設 等への入 所	在宅サービ ス導入調整 等			
豊岡	0	1	2	5	4	3	5
城崎・竹野	0	0	0	4	1	0	2
日高	0	0	1	7	4	0	9
出石・但東	1	0	0	3	3	0	5
合計	1	1	3	19	12	3	21
							15

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

方針(1) 介護支援専門員が各関係機関と連携体制を構築できるよう支援する。

- ア 介護支援専門員連絡会や各圏域の会議で関係機関と情報共有や意見交換を行う機会を持つ。
- イ 医療介護連携をスムーズに行うために医療関係者とお互いを理解するための機会を持つ。

【活動実績】

感染予防に配慮しながら介護支援専門連絡会等で意見交換の場を持ったり、事例検討会を行うことができた。事例検討会については、主任介護支援専門員ネットワーク連絡会やワーキングチームと事例の準備や検討を進めた。本人主体のケアプラン作成に向けて課題分析の視点を共有することで、アセスメントの重要性に改めて気づく機会となった。また、豊岡病院看護部等と繋がる会等で、医療関係者と意見交換を行い入退院時の連携がスムーズになるように検討した。

方針(2) 介護支援専門員の質の向上を図る。

- ア 介護保険制度についての理解を深められるように、研修会を開催したり、話し合う機会を持つ。
- イ 介護支援専門員から地域包括支援センターに受けた相談内容を整理し、効果的に相談対応が行えるようになる。

【活動実績】

豊岡市福祉監査室長を講師に迎え、介護報酬改定について研修会を行った。制度改正要点を学び適切なケアマネジメントの実践に繋げることができた。

介護支援専門員がひとりの事業所や経験年数が短い介護支援専門員からの相談について、複雑な制度に関する確認を行った。また、支援に苦慮しているケースについて一緒に考え、介護支援専門員自身で課題解決が出来るように、後方的な支援を行った。

方針(3) 介護支援専門員が地域の把握や地域とつながる視点を持てるように支援する。

- ア 介護支援専門員がケアプランに社会資源を位置付けたり、防災について検討するため、地域状況等を把握できるような機会を持つ。

【活動実績】

『災害時等に活用できる業務継続（BCP）の備えについて』の研修を行い、自然発生時に備え介護サービスを中断させない体制づくりについて学んだ。災害時に安全に避難ができるように、ケアプランに位置付けることの意識づけや、災害マニュアルを作成することへの理解が図れた。

【課題】

業務継続計画（BCP）については、居宅介護支援事業所として作成できていない事業所が多くあり、今後作成に向けて学習会を検討する必要がある。

【介護支援専門員支援回数】

(単位：回)

	ケース 検討会議	同行訪問	個別相談 情報提供	サービス 担当者会議	合計
豊岡	23	270	1,531	34	1,858
城崎・竹野	7	111	329	18	465
日高	9	54	400	18	481
出石・但東	5	81	131	12	229
合計	44	516	2,391	82	3,033

◆豊岡が多い理由は、居宅介護支援事業所数も介護支援専門員数も他圏域合計の倍以上であることが、主な要因である。

【介護支援専門員ネットワーク連絡会開催実績】

	回数	延参加人数
豊岡	0回	0人
城崎・竹野	2回	57人
日高	0回	0人
出石・但東	0回	0人
合計	2回	57人

※参加者

(介護支援専門員、民生委員、包括職員)

◆コロナ禍で開催できていない圏域が多い中、城崎・竹野では、介護支援専門員と民生委員が連絡会の中で顔合わせの機会を持つことができた。

4 地域ケア会議の推進

方針(1) 個別ケア会議を開催し、ケースの情報共有と課題解決を図る。

ア 個別ケア会議において課題整理を行い、多職種で情報共有、役割分担し、課題解決に向けて検討する。

【活動実績】

個別ケア会議では、高齢者やその家族が抱える様々な問題を多職種や民生委員等で情報共有し、課題を整理することで解決に向けた具体策の検討にもつながっている。ケア会議を通じて地域の中で起きている様々な課題を考える機会にもなっている。

【課題】

複合的な課題を抱える高齢者やその家族への支援、精神疾患やアルコール依存症の方の支援、地域との関係性を断っている方の地域での見守り方法など困難な課題に対して有効な解決策が少ない。

【事例】

80歳代 女性 独居 (日高圏域)

躁うつ病で自殺企図を繰り返し、家族や友人の支援を受けていた。病気への不安や独居に対する不安が強い反面、医療や薬を拒否し、自殺をほのめかす言葉や行為で、支援者を拘束する事が多く周囲も疲労困憊していた。令和3年に別居の一人娘が逝去。顕著な体重減少で在宅生活が困難となり、現在は要介護1で長期間ショートステイを利用している。年金額が月6万円で、金銭的な余裕がなく、今後の生活の場の選択肢が少ないとため、個別ケア会議で検討を重ねているが、なかなか解決には至っていない現状である。

- 方針(2) 自立支援型ケア会議を通じて、本人の望む生活の実現と介護支援専門員の資質向上を図ると共に、地域課題を抽出し整理する。
- ア 自立支援型ケア会議を実施し、多職種で地域課題を共有し整理する。

【活動実績】

コロナ禍で参集できない時には、オンラインを活用し開催した。今年度は、地域課題の抽出・整理を年度途中にも行き方向性を検討した。

城崎・竹野では、自立支援型ケア会議の中で介護支援専門員から民生委員との関りが持ちにくいとの意見があり、介護支援専門員と民生委員の顔合わせの機会を設定し、今後の連携を深めるきっかけ作りができた。また、城崎では高齢者が多く利用される外湯の見学を昨年に引き続き多職種で実施し、地域にある課題を共有し検討する機会となった。

【個別ケア会議開催回数】

豊岡	城崎・竹野	日高	出石・但東	合計
14回	1回	14回	2回	31回

【自立支援型地域ケア会議件数】

豊岡	城崎・竹野	日高	出石・但東	合計
20件	18件	15件	16件	69件

5 介護予防ケアマネジメント業務

- 方針(1) 自立した生活のための能力維持と向上を図り在宅生活を支える。
- ア 介護予防について広報紙による啓発活動、地域の集まりの場で啓発活動をすすめる。
- イ 高齢者の自立支援につながるよう公的サービス以外のサービス・活動等、住民主体の支援などの活用も視野に入れ、多職種との連携を強化する。
- ウ 高齢者が、自立した生活を継続できるよう介護予防の場につなげる。

【活動実績】

介護予防について、社協広報誌 NIKO 11月号に、コロナ禍だからこそ気をつけたいフレイルの簡単チェックやフレイル対策「食事」「運動」「社会参加」の重要性について掲載した。

【課題】

介護予防の必要な方が事業をイメージしにくく取り組みに繋がらないケースがある。事業の周知や参加につなげるためのPR動画等、コロナ禍で集まりの場に参加しにくい状況でも手軽に見てもらえる方法の検討が必要である。

【認定区分別介護予防等サービス計画作成件数】

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	289	301	288	290	267	266	265	268	246	222	212	214	3,128
要支援1	744	741	733	762	741	765	772	808	789	790	768	799	9,212
要支援2	396	386	384	391	378	393	389	395	384	376	366	367	4,605
合計	1,429	1,428	1,405	1,443	1,386	1,424	1,426	1,471	1,419	1,388	1,346	1,380	16,945
豊岡	603	604	589	612	593	604	607	625	608	607	595	608	7,255
城崎・竹野	241	244	245	249	231	245	250	256	249	232	224	232	2,898
日高	312	314	313	312	308	319	305	317	294	299	290	298	3,681
出石・但東	273	266	258	270	254	256	264	273	268	250	237	242	3,111
合計	1,429	1,428	1,405	1,443	1,386	1,424	1,426	1,471	1,419	1,388	1,346	1,380	16,945

介護予防等サービス計画作成件数

【指定介護予防支援事業者・地域包括支援センター作成分】

	2021年度	2020年度	2019年度
合計	9,582件	9,628件	9,270件

【委託事業者作成分】

	2021年度	2020年度	2019年度
合計	7,363件	6,909件	6,824件

◆前年度より、介護予防等サービス計画作成件数が408件増加している。

◆介護予防等サービス計画作成件数は年々増加しており、居宅介護支援事業所への委託件数も増加傾向である。しかし、委託の受け入れ先が見つかりにくい現状で、総合相談支援業務との両立が困難になっている。

6 生活支援体制整備の推進

方針(1) 生活支援コーディネーター等と連携し、地域における課題解決のネットワークの構築に努める。

ア 高齢者やその家族を支える地域の多様な社会資源を把握する。

イ 生活支援コーディネーター等と連携し、話し合いの場をつくり、課題解決に向けた取組みをすすめる。

【活動実績】

買物や受診などのアセスメントを通して、高齢者を支える社会資源を把握するよう努め、新たな移動販売事業所の発見など、思わぬ資源の発掘ができることがある。また、生活支援コーディネーターと随時情報を共有し、地域の動き・社会資源の状況把握ができている。

【課題】

課題解決への取り組みや課題解決のネットワーク構築については、引き続き、生活支援コーディネーター等と連携した取り組みを行う必要がある。

※生活支援体制整備事業…市町村の日常生活圏域ごとに「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」と「協議体」を配置して、地域住民の「互助」による助け合い活動を推進することで、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりを進める。

7 認知症施策の推進

方針(1) 認知症についての知識を普及啓発し、正しい理解を深める。

- ア 小中学生や高校生を含む幅広い世代や企業等を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、対象者にわかりやすく伝え理解を深めることで、地域で認知症の方を受け止め、見守り・支え合う地域づくりに取り組む。

【活動実績】

小学校の認知症サポーター養成講座では、児童から「優しい言葉で声をかけると安心につながり、理解をしてもらいやすいと思う。相手を不安にさせないよう、傷つけないように優しく声をかけることが大切だとわかった。」などの感想が聞け、認知症を身近に感じ、理解を深めてもらう機会となった。中学校では、福祉学習と組み合わせて行うことで、自分たちの住む町の課題やその解決に向けて、自分たちに何ができるのか、誰もが住みやすい町になるにはどんなことが必要かということを話し合い、共有する場となった。

【課題】

コロナ禍で地域に出にくい状況で、啓発が進まない地域もある。

方針(2) 認知症の早期発見・早期対応に努める。

- ア 認知症初期集中支援推進事業の周知を、居宅介護支援事業所や民生委員等に行い早期発見につなげる。
- イ 「認知症相談センター」として、早期に適切な医療・介護・社会資源につなげる。相談内容に応じて認知症初期集中支援チームにつなぎ、連携して在宅での生活支援を行う。

【活動実績】

居宅介護支援事業所へ認知症初期集中支援推進事業の周知を行ない、課題のあるケースの早期発見につながった。

認知症の相談は年々増加しており、「認知症相談センター」としても認知されてきている。認知症の相談の中で、受診が出来ないケースや自立支援型ケア会議の事例から認知症初期

集中支援推進事業へつなげたケースもあった。結果、専門医の受診につながり、作業療法士のアセスメント訪問を受け、具体的な支援の対応策が見いだせた。

介護支援専門員からは、「事例提出を行い、医療的視点のアドバイスを受け在宅での生活支援ができた。事例提出することで、アセスメントがどの程度できているかを自己評価するきっかけになる。」などの感想が聞かれた。

【課題】

認知症の相談は年々増加している。独居のひとりで動ける方は、介護保険を申請しても生活上の課題が他者には伝わりにくいため非該当になるケースが多く、必要としている介護保険サービスの提供が出来ない場合もある。

【認知症相談延件数】

豊岡	城崎・竹野	日高	出石・但東	合計
556件	146件	115件	122件	939件

【認知症サポーター養成講座開催回数】

豊岡	城崎・竹野	日高	出石・但東	合計
5回	2回	2回	1回	10回

【認知症初期集中支援対応件数】

年度	前年度からの継続	新規	終了	4月以降継続
2021年度	8件	9件	8件	9件
2020年度	3件	10件	5件	8件
2019年度	3件	8件	8件	3件

※認知症初期集中支援チーム…認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けるために、認知症の人やその家族に早期に関わる。医療や介護サービス等につなげていけるような集中的な支援を行い、認知症の方やご家族を支える。

資料3

2021度地域包括支援センター事業等収支決算集計表

(単位:円)

	収入	支出	収支差額
豊岡地域包括支援センター	81,076,274	77,339,364	3,736,910
城崎・竹野地域包括支援センター	35,946,490	32,475,563	3,470,927
日高地域包括支援センター	42,505,370	38,531,018	3,974,352
出石・但東地域包括支援センター	40,519,033	35,723,972	4,795,061
全地域包括支援センター合計	200,047,167	184,069,917	15,977,250

2022年度 豊岡市地域包括支援センター事業計画

【地域包括支援センター活動目標】

豊岡市老人福祉計画・第8期介護保険事業計画の基本理念「みんなで支え合い 笑顔あふれる まちづくり」の実現に向けて、高齢者が可能な限り住み慣れた地域でその人らしい生活を継続していくことができるよう地域課題を把握し、市や地域住民、関係機関との連携・協働により、地域共生社会（「高齢」「障害」といった縦割り型福祉ではなく、生活上の困りごとを抱えた人を地域で幅広く支えることが出来るような包括的支援）を見据えた地域包括ケアシステム構築の推進に向け取り組む。

1 総合相談支援業務

- 方針(1) 高齢者のさまざまな相談を受け止め、心身の状況や家庭環境等の適切な実態把握を行い、緊急性を判断し優先順位をつけ対応する。
 - ア 相談対応の中で、必要に応じ適切なサービスや社会資源につなぎ、総合相談支援対応の終結を意識し対応する。
- 方針(2) 支援を必要とする高齢者の把握及び継続的な支援を行うため、地域における様々な関係者とのネットワーク構築を行う。
 - ア 地域住民、ボランティア、介護サービス事業者、生活支援コーディネーター等と連携を図り、支援の必要な人が地域の中で支えられているネットワークの確認や新たなネットワークづくりに取り組む。

2 権利擁護業務

- 方針(1) 豊岡市高齢者虐待対応マニュアルに沿い、関係機関と協同して適切な対応を行う。
 - ア 事例検討を行い、適切な対応ができるよう力をつける。
- 方針(2) 必要な人が成年後見制度の利用が出来るよう支援する。
 - ア 必要な人に成年後見制度の利用がつながるように事例検討などを通じてスクリーニング力を高める。
- 方針(3) 関係機関と連携し、高齢者の消費者被害の防止に努める。
 - ア 但馬消費生活センターや豊岡市消費生活センターと連携し、意見交換・情報交換を行い、高齢者の消費者被害の防止に努める。

※スクリーニング = ふるいにかけて条件に合うものを選び出すこと。

ここでは、優先順位や緊急性の判断のために用いる。

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- 方針(1) 介護支援専門員が各関係機関と連携体制を構築できるよう支援する。
- ア 介護支援専門員連絡会や各圏域の会議で関係機関と情報共有や意見交換を行う機会を持つ。
- イ 医療介護連携をスムーズに行うために医療関係者とお互いを理解するための機会を持つ。
- 方針(2) 介護支援専門員の質の向上を図る。
- ア 高齢者がかかりやすい疾患についての理解を深められるように研修の機会を持つ。
- イ 介護支援専門員から地域包括支援センターに受けた相談内容を整理し、効果的に相談対応が行えるようになる。
- 方針(3) 介護支援専門員が地域の把握や地域とつながる視点を持てるよう支援する。
- ア 業務継続に向けた取り組みの強化・感染症対策の強化についての研修の機会を持ち、必要な知識を身につけられるように支援する。

4 地域ケア会議の推進

- 方針(1) 個別ケア会議を開催し、ケースの情報共有と課題解決を図る。
- ア 個別ケア会議において課題整理を行い、多職種で情報共有、役割分担し、課題解決に向けて検討する。
- 方針(2) 自立支援型ケア会議を通じて、本人の望む生活の実現と介護支援専門員の資質向上を図ると共に、個別の事例検討から地域課題を抽出し整理する。
- ア オンライン会議も活用しながら自立支援型ケア会議を開催し、多職種で個別の事例検討からみえる地域課題を共有し整理する。

5 介護予防ケアマネジメント業務

- 方針(1) 自立した生活のための能力維持と向上を図り在宅生活を支える。
- ア 介護予防について広報紙による啓発活動、地域の集まりの場で啓発活動をすすめる。
- イ 高齢者の自立支援につながるよう公的サービス以外のサービス・活動等、住民主体の支援などの活用も視野に入れ、多職種との連携を強化する。
- ウ 高齢者が、自立した生活を継続できるよう介護予防の場につなげる。

6 生活支援体制整備の推進

方針(1) 生活支援コーディネーター等と連携し、地域における課題解決のネットワークの構築に努める。

- ア 高齢者やその家族を支える地域の多様な社会資源を把握する。
- イ 生活支援コーディネーター等と連携し、話し合いの場に参加し、地域における課題の解決に向けた取組みをすすめる。

7 認知症施策の推進

方針(1) 認知症についての知識を普及啓発し、正しい理解を深める。

- ア 小中学生や高校生を含む幅広い世代や企業等を対象に認知症サポーター養成講座や認知症講座を開催し、対象者に認知症をわかりやすく伝え理解を深めることで、地域で認知症の方を受け止め、見守り・支え合う地域づくりに取り組む。

方針(2) 認知症の早期発見・早期対応に努める。

- ア 認知症初期集中支援推進事業の周知を、居宅介護支援事業所や民生委員等に行い早期発見につなげる。
- イ 「認知症相談センター」として、早期に適切な医療・介護・社会資源につなげる。相談内容に応じて認知症地域推進委員や認知症初期集中支援チームにつなぎ、連携して早期対応・早期診断に向けた支援を行う。

資料 5

2022年度地域包括支援センター事業等収支予算集計表

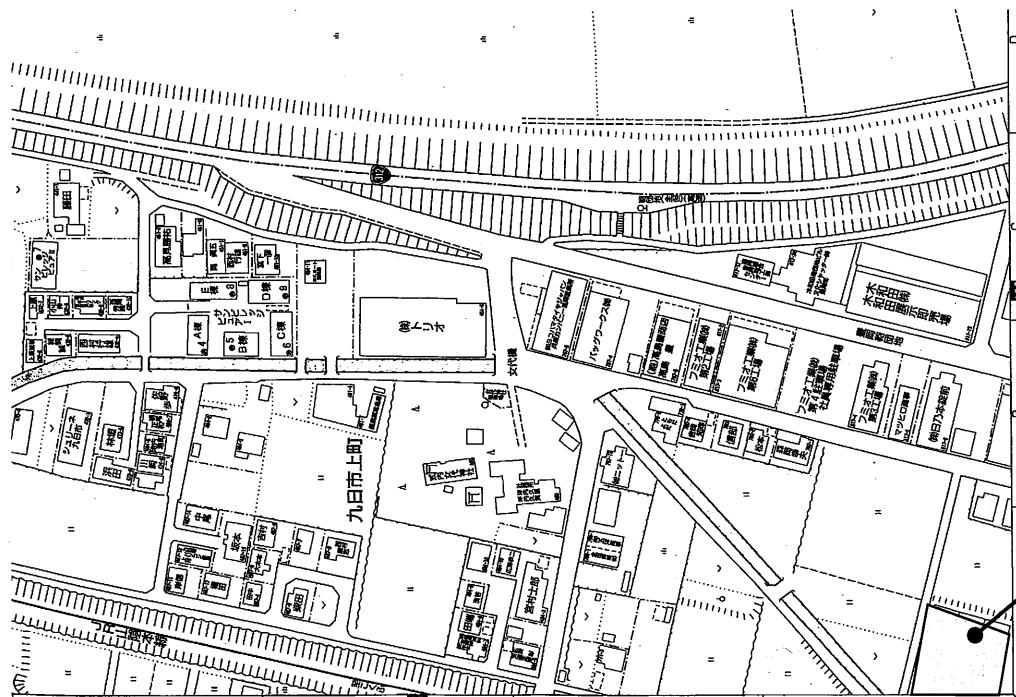
(単位:円)

	収入	支出	収支差額
豊岡地域包括支援センター	81,093,000	81,093,000	0
城崎・竹野地域包括支援センター	34,991,000	34,991,000	0
日高地域包括支援センター	42,450,000	42,450,000	0
出石・但東地域包括支援センター	40,466,000	40,466,000	0
全地域包括支援センター合計	199,000,000	199,000,000	0

(1) (福) あそうを八代地区支え合い生活支援事業受託者とすることについて

応募団体名	社会福祉法人あそう（特別養護老人ホームここのか）							
応募団体住所	朝来市山東町一品 424（豊岡市九日市上町 785）							
代表者	理事長 南光 三郎（施設長 梶原 宏）							
団体の概要	職員数	279人（67人）						
	既存の活動・事業	① 特別養護老人ホーム（地密含む） 4箇所（2箇所） ② 短期入所施設経営 4箇所（2箇所） ③ デイサービスセンター 3箇所（1箇所） ④ 認知症高齢者グループホーム 1箇所 ⑤ 居宅介護支援事業 3箇所（2箇所） ⑥ 高齢者相談センター 1箇所 ⑦ 支え合い生活支援事業 1地区（1地区） ⑧ 支え合い通所介護事業 3地区（3地区）						
		※（ ）書は、豊岡市内での活動・事業						
実施事業名	支え合い生活支援	実施地区	八代地区（日高地域）					
		実施拠点	豊岡市九日市上町 785					
			特別養護老人ホームここのか					
応募区分	単独実施							
配食実施体制	特別養護老人ホームで提供している食事を配食する。							
地区とのつながりの状況	<p>2020年4月から八代地区において、支え合い通所介護を事業受託者として実施している。</p> <p>また、八代地区コミュニティセンターで実施されているサロンにおいて、サロン参加者の希望者に弁当を提供する等、地区内住民とのつながりが増えている。</p>							
事業実施理由及び実施検討内容	<p>現在受託している八条地区の生活支援サービスと同様に、地域包括ケアシステムの組織づくりの一環として、要支援者や事業対象者への多様なサービスの担い手となることが重要であり、高齢者に切れ目なく総合的なサービスを提供していきたいと考え、地域の皆様や利用者の皆様と共に、福祉にかかわる地域力を向上させていきたいと考えた。また、八条地区での生活支援サービスや、八代地区での通所介護サービスの経験を活かし、利用者の方にこの事業の重要性を理解していただき、地域になじむサービスを模索していきたい。</p>							
開始予定日	2022年9月～							
特記事項	実施拠点の所在地区（八条地区）と主たる実施地区（八代地区）が異なるが、支え合い生活支援サービス事業では認められている。							
地区データ	人口	644人	高齢者数	272人	要支援者数			
					17人			

八代地区支え合い生活支援実施拠点（所在地 九日市上町 785）



《外観》

